

「空間の音の響き」と「製品の音づくり」 (後編)

講演

概要

今回の話の中心は、サウンドデザイン。対象は、製品と環境（公共空間、建築）です。前回、タイトルの空間と製品のうち片方（空間）の話で時間切れとなり、前回ご参加いただいた方には、大変申し訳ありませんでした。アンケート拝読し、「製品の音づくりに興味があったが、、、。」とのコメントの方がいらして、恐縮しております。今回は、製品のサウンドデザインを最初にお話しします。そして、「不利益」というコンセプトで「社会の音環境」を考えてみたいと思います。「不利益」については、下の枠にある「講演のポイント」で少し説明しています。今回も金曜日の午後です。今回は講演後、懇親会も開催します。

2018年 12月7日 **金** 13:00-17:00

場 所	株式会社 小野測器 本社・ソフトウェア開発センター 9階 講演室 神奈川県横浜市港北区新横浜 3-9-3
定 員	50 名
参加費	無 料 （懇親会は事前申し込み。参加費 ¥ 3,000を当日会場にてお支払いください。）
ご持参いただくもの	名刺、筆記用具

◆対象者◆

- ・特に予備知識は必要ありません。音に興味のある人ならどなたでも。

◆講演のポイント◆

過去数十年、工業化と並行して表出した甚大な騒音問題は、技術進化により対策され、日本では、幹線道路周辺の一部の地域を除けば、静かな環境が実現できています。また、EVなど駆動源が機械から電気になるという劇的な変化に限らず、電気製品やOA機器等も大変静かになり製品の静音化も進みました。

しかし、これで問題が解決したわけではありません。静音化が進むと、今度は、これまで気づかなかった異音や微かな音が気になるという、新たな問題が浮上しました。音の問題は、際限がありません。音は、そもそも意味を持ち、質（音色）があり、他の音との関係や場の文脈に左右されます。計測器で測れる「量」は、音の情報のほんの一部であると認識すべきです。（ここまで前回と同文）

本講演では、まず、製品のサウンドデザインについて事例を交えてお話しします。モノから発生する音は、振動、衝突、摩擦、空力などの発生する原因があります。それは“モノの動き”に伴って起こる物理現象です。音の起源といってもいいでしょう。その音を聴いて、人は、“モノの動き”と“モノの材質”をイメージします。耳に届く音の特質から、物理的に音が生じる瞬間にモノがどう動いたか、即ち、起きていることの意味を理解します。音の量や質にだけにフォーカスする前に、意味と音との整合を考えることが、モノのサウンドデザインの最初のステップと考えています。

もうひとつの話題は、前回でも予告しました不利益をコンセプトに「社会の音環境」を考察します。いくつかの学会で発表した内容を、柔らかくお話しします。不利益は、不便が起点になって獲得する経験価値と定義してもいいでしょう。シェアードスペースを例に説明します。車線も標識も信号も取り払って、道路側では安全を担保しないという道を実験的につくっています。ここで何が起こるかという、歩行者や、自動車の運転手は、自らに安全の担保を委ねられるため、安全への意識は当然ながら、人間が公共の場で本来持つべき、他者に対する配慮、利他的な心性が発揮され、高齢者や障害者への自然でスマートな人による支援が可能になるというものです。この不利益の手本を音環境のデザインに援用できないか。そのアイデアのいくつかをご紹介します。

お問い合わせ

株式会社 小野測器 セミナーグループ
円城寺（エゾヨカヅ） / 笹本（ササモト）
TEL : 045-476-9711
FAX : 045-470-7243